

工場電気設備調査専門委員会

設置趣意書(案)

2018年2月28日
ものづくり技術委員会

1. 目的

本調査専門委員会の前身となる委員会では1970年に工場配電のあるべき姿を総合的且つ系統的に解説した初版「工場配電」を発刊して以来1978年、1989年、2000年に一部改訂や再編集を行ってきた。又、2011年には、最新の技術・規格・基準に基づいて大幅な改訂を実施した。

一方、国内では高度経済成長により多くの工場が建設された時代から、建設された工場設備の老朽化による更新工事が主流となる時代へと変わってきた。これに伴い、従来の工場電気設備技術に加え、限られた場所、工期でどのように建設・更新工事を行うかも課題となってきた。加えて、熟練技術者の高齢化、人材の空洞化により、十分に技術伝承できないまま、経験の浅い技術者が建設を担当する状況も増えてきている。その為、「工場配電」は時代に合わせた更新工事の設計、及びベテラン技術者の知識と経験等を盛り込んだ内容への変化が必要と考えられる。

そこで、若手・中堅技術者向け「工場配電」への改訂を目的に調査専門委員会を発足し、現状の工場電気技術者の要求、ベテラン技術者の知識・経験から伝承すべき事項、最新技術・規格・基準等を調査し、あるべき姿を提供する。

本調査専門委員会の成果は、単行本(仮称)「(改訂)最新 工場配電」に反映する。

2. 背景および内外機関における調査活動

高度成長期に建設された電気設備が更新時期を迎えている。一方で、建設設計や種々のトラブルを経験したベテラン技術者が少なくなっており、これらのニーズに対応する次世代の人材の育成が急務な課題になっている。

前述の状況より、先の「次世代に繋ぐ工場配電のための協同研究委員会」により、現行版「工場配電」の改訂ポイントの検討がなされた。その結果を踏まえ、改訂には、更に詳細な調査が必要である。

3. 調査検討事項

工場設備における下記事項

- (1) 工場電気技術者が現場にて抱える昨今の要求事項の調査
- (2) ベテラン技術者の知識・経験で伝承すべき事項の調査
- (3) 最新規格・基準の調査
- (4) 最新技術調査

4. 予想される効果

本調査により、(仮称)「(改訂)最新 工場配電」として発刊し、若手・中堅技術者が必要とする基礎技術と知識が明確になることが期待される。

5. 調査期間

平成30年(2018年)4月～平成32年(2020年)3月

6. 委員会の構成

委員長	水越 孝祐	(東京ガス)	会員
委員	植田 旬	(東京電力エナジーパートナー)	非会員
委員	上野 優光	(旭化成)	会員
委員	江藤 計介	(出光興産)	会員
委員	大槻 正典	(日立製作所)	会員(手続中)
委員	木村 文陽	(三菱ケミカル)	会員
委員	倉田 智成	(東芝三菱電機産業システム)	会員
委員	合田 孝行	(三菱電機)	会員(手続中)
委員	小林 昭信	(サンミ)	会員
委員	近藤 努	(富士フイルム)	会員(手続中)
委員	水津 光央	(きんでん)	非会員
委員	田中 三郎	(GSユアサ)	会員
委員	西 隆男	(旭化成エンジニアリング)	会員
委員	野崎 欽也	(富士電機)	会員(手続中)
委員	坂東 誠	(坂東エネルギー・環境研究所)	会員
委員	廣崎 雅直	(JFEスチール)	会員
委員	山崎 直哉	(住友電気工業)	会員
委員	山下 貴史	(三菱ケミカルエンジニアリング)	非会員
幹事	佐々木 伸昌	(旭化成)	会員
幹事	高野 睦	(明電舎)	会員
幹事補佐	成毛 喜一郎	(東京ガス)	会員

7. 活動予定

委員会 6回/年 見学会 1回/年
幹事会 2回/年

8. 報告形態

単行本 (仮称)「(改訂)最新 工場配電」を発行し、本資料にて産業応用フォーラムを開催する。